

Vol.18 食について学び続けませんか？（2019年11月）

千葉 悦子

本年10月22日の即位礼正殿の儀における、天皇陛下のお言葉の最後は次ですが、この部分の感想等が私の耳や目には入らず、残念です。

.....

国民の叡智とたゆみない努力によって、我が国が一層の発展を遂げ、国際社会の友好と平和、人類の福祉と繁栄に寄与することを切に希望いたします。

.....

偶然なのかもしれませんが、11月11日の祝賀御列の儀も含めて、テレビでの街の人の感想は「天皇陛下、どうぞ頑張ってください」という趣旨で、「国民である自分たちも頑張ります」といったものはなかったです。まばゆい美しさ感動して、考えられなくなっただけかもしれませんが・・・

人は誰でも食べ物を食べなくては生きられませんが、一般には日常茶飯事という感じで、食について学ぶ必要があるなどとは気が付きにくいでしょう。私は文科省後援再教育講座や内閣府食品安全委員会の講座や、当会の例会やイベント等を通して食について学ぶにつれ、思い込みに気づき、「無知の知」を思い知らされます。

百科事典の様な知識という意味ではなく、リスクの基本的な考え方や、農業のイロハのようなことは、どなたも「消費者の義務」「持続可能な社会に向けての知識」として知る必要があると思います。そうでないと、食品の表示を含むルール作りの際に、お門違いな意見を出すことになりかねません。

たとえば、今年はゲノム編集技術を使った食品が話題になりました。仮に、従来の品種改良について何も知らないと「人工的で心配だから、（その種の遺伝子を壊すだけで外来遺伝子を含まない）ゲノム編集食品にも表示義務を求める」という意見に賛成しがちでしょう。正直なところ、私も、従来の品種改良も遺伝子

の変化によるし、遺伝子の一部が壊れることは自然にもよく起こること等を知らずにいたら、そうになっていたことでしょう。

何でも厳しいルールにさえすれば、安全、公平、かつ、だれでも購入できるような価格になるわけではないし、輸出入も難しくなることも考え合わせる必要があります。また、「国民の理解が得られない」という理由で新しい技術が開発されないと、世界での競争に負けて「発展」とは逆になってしまいます。

そういうわけで、一人ひとりが食について学ぶ必要があると考えます。新技術を含めて食について学ぶのは大変な場合もありますが、その「たゆみない努力」をご一緒に行きませんか？